

官僚の説教と 庶民の智慧

中国の有名な大学の共産党書記長が、当校の学生に政治的なスピーチをした。彼のスピーチのタイトルは「アメリカの危機と中国の台頭」で、その内容は米国の政治・経済・社会等のあらゆる面に対する批判と中国の現在と未来への賛同である。しかし、この党の書記長は自分の息子をアメリカに留学に行かせ、彼の将来を楽しみにしていると親しい友人に自慢した。

中国古代賢人の孔子様は「危邦不入、乱邦不居」(危険な国に入らず、混乱した国に住まず)という名言を残している。この党の書記長が当然アメリカはどういう国であることが

よく知っているが、もしその国が本当に危険と考えるなら、自分の最愛の一人っ子の息子さんをそこへ行かせない筈である。今の中国の官僚達は表の顔と裏の顔を両方持っている。公の場で中国を賞賛し、アメリカ等の西側の国を非難する。そうしないと、自分の地位を保証できないのである。自分と自分の家族の留

学、移民、貿易の選択は当然公の場とは関係ないことである。

中国の清華大学の孫立平教授は、庶民は絶対に共産党官僚の公式な談話と、媒体の文章を信じるべきでなく、官僚達の親族が行く国が間違いなく一番いい国であると考えべきと言いつつた。



現在の共産党の最高指導者達は、自分の子供を中国と最も近い関係の北朝鮮、キューバ、ベトナム等の社会主義の国、あるいは同盟国のロシアには留学させず、留学先として選ばれるのはよく批判している「邪悪な国」アメリカである。今の中国の庶民は、いろいろな情報を深く分析し、真実と嘘をきちんと見分ける能力を身に着けたようである。共産党が長い間行ってきた国民の洗脳工作と媒体の独占は、結局、水の泡になるだろう。

定期購入

会員様募集中

1年・6回コース
10%割引

半年・3回コース
5%割引

詳細は同送チラシ
をご覧ください。